

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和4(2022)年度

施設名	栃木県とちぎわんぱく公園
施設所管課	県土整備部都市整備課
指定管理者	とちぎわんぱく公園指定管理グループ ・公益財団法人栃木県民公園福祉協会(法人番号9060005007605) ・栃木県公園事業協同組合(法人番号5060005007682)
指定期間	平成31(2019)年4月1日～令和6(2024)年3月31日

1 施設の概要

施設所在地	下都賀郡壬生町大字国谷2273
施設の概要	①指定管理者による管理面積 37.2ha ②主要な施設 ふしぎの船、こどもの城、ばなばなのまち、なかよし農園、カヌーの家、虹の広場、たぬきのめいろ、はてなの広場、夢花壇、冒険の湖、トンボの池、風の本っぱ、りんご並木等
業務内容	①公園の維持管理に関する業務 ②有料公園施設の利用の許可に関する業務 ③公園の運営に関する業務

2 収支の状況

令和4(2022)年度

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	125,700	指 定 管 理 ※2	事業費	14,654
	利用料金収入	5,292		管理運営費	80,016
	その他収入※1	8,465		人件費	42,248
	合計	139,457		その他支出※1	6,973
	指定管理業務収支差額①	▲4,433		合計	143,890
	自主事業	51,283		自主事業	50,696
	自主事業収支差額②	587			
	収支差額(①+②)	▲3,846			
備考(※1 その他収入の主なものを記載) ・雑収入 7,908千円			備考(※1 その他支出の主なものを記載) ・租税公課 6,973千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

令和3(2021)年度(前年度)

(千円)

収入			支出		
指 定 管 理 ※2	指定管理料	125,700	指 定 管 理 ※2	事業費	17,924
	利用料金収入	3,990		管理運営費	68,281
	その他収入※1	2,284		人件費	40,041
	合計	131,974		その他支出※1	7,938
	指定管理業務収支差額①	▲2,210		合計	134,184
	自主事業	48,611		自主事業	47,306
	自主事業収支差額②	1,305			
	収支差額(①+②)	▲905			
備考(※1 その他収入の主なものを記載) ・負担金 398千円 ・利息 1千円 ・雑収入 1,885千円			備考(※1 その他支出の主なものを記載) ・租税公課費 7,938千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

	令和3（2021）年度 （前年度）	令和4（2022）年度
公園利用者	693,932人	767,944人

施設名（利用料金施設）	令和3（2021）年度 （前年度）	令和4（2022）年度
ふしぎの船	30,380人	39,412人

施設名		令和3（2021）年度 （前年度）	令和4（2022）年度
体験学習施設	催し物回数 （延べ人数）	124回 （8,926人）	126回 （9,435人）

4 サービス向上に向けた取組

(1) 基本テーマに基づいた管理運営

- ・人気の農業体験プログラムは、募集開始と同時に電話による申込が殺到し長時間お待ち頂いていたことから、ホームページに専用の募集フォームを作成するとともに、先着順ではなく一定期間募集のうえ抽選とするなど募集方法の改善を図った。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、「自然体験」「農業体験」等のプログラムを企画し、子供たちが主体となって実践し、協力し合い喜びや感動を分かち合う活動となるよう取り組んだ。
- ・プログラムの実施にあたっては、専門家や地域で活動しているボランティア団体等の協力により、質の高いプログラムを提供した。また、講師の方々にも参加者同様の新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底してもらい、安全にプログラムが実施できるよう配慮した。

(2) 利用者満足度を高める管理運営

- ・こどもの城やふしぎの船、ぱなぱなのまち等において、抗菌抗ウイルス効果のある無光触媒エコキメラのコーティング施工を行い、衛生環境の向上と感染防止に努めた。
- ・国体開催や当公園指定管理グループ代表者である（公財）栃木県民公園福祉協会の設立50周年を記念して、都市緑化月間事業「とちぎグリーンフェスタ」を例年の3倍の期間となる1か月間開催した。国体をテーマにした花壇修景を施したほか、3年ぶりにガーデニングコンテストを開催するなどイベントの拡充を図った。
- ・ふしぎの船の一部リニューアルとしてセンサーのふしぎが新規オープンしたことを記念し、近隣幼稚園を招待するなど自主イベントを実施したほか、プレスリリースを行うなど周知にも努めた。
- ・車椅子、ベビーカー、着替え用の子供服、靴、傘を無料で貸し出した。車椅子、ベビーカー、傘の貸し出しの際は、前後に消毒を行い新型コロナウイルス感染拡大の防止にも配慮した。
- ・シンボル花壇である「夢花壇」は、ガーデンデザイナーに設計を依頼し、季節感、色合い、品質に重点を置いて修景を行った。
- ・春には通常の7,500㎡の花畑に3,500㎡を加えた合計11,000㎡に、約150万本のセントーレアを咲かせて集客を図った。秋には約25万本のコスモスを咲かせ、訪れる方の目を楽しませた。また、一面の花を楽しんでいただけるように、花畑の中央に花見台を設置した。
- ・平日の余暇を有効活用してもらうことを目的に、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、大人向けの陶芸教室、和紙ちぎり絵教室などを実施した。
- ・ふしぎの船の利用促進の一環として、こいのぼり飾り、七夕飾りなど利用者が参加できるイベントを実施した。
- ・ハロウィンイベントや新年の書道作品展示、雛段飾りなど季節ごとのイベントを、新型コロナウイルス感染防止を考慮しながら開催した。
- ・12月に虹の広場を電飾で飾るとともに、電飾トレインを走らせるクリスマスイルミネーションを開催して、幻想的な夜の公園を演出した。
- ・休日には新型コロナウイルス感染防止対策を徹底することで、わんぱくトレインの運行、遊具、縁日を実施し、遊びのアイテムを増やした。
- ・土日にはキッチンカーを出店して、利用者の食に対するニーズに応えた。

- ・ SNSを活用して、新型コロナウイルスに関する施設の開放状況、見ごろの花情報など、旬な情報や公園の魅力を発信した。
 - ・ ふしぎの船のシニア料金の設定やポイントカードの発行、消防団員や高齢免許返納者への割引などにより、高齢者やリピーターが利用しやすいようにした。
 - ・ こどもの城の旧レストランを無料休憩所として開放することで、屋内で食事（お弁当）がとれる場所を増やした。
 - ・ 各施設の入口に消毒液の設置、施設閉館後の消毒作業、コロナ禍での講座のあり方などを徹底して、公園内施設を安全に利用できるよう努めた。
- (3) 自然環境を保護・保全する管理運営
- ・ 昆虫や野鳥が息するための環境整備に努め、子供たちの体験プログラムにつなげた。
 - ・ 枝払いや間伐を適切に行い、樹林地の保全に努めた。
 - ・ リンゴやサルスベリ、果樹の剪定を冬に行い、次年度にきれいな花を咲かせられるような管理を行った。
- (4) 地域活動拠点として地域とともに生きる公園づくり
- ・ 国体協力事業として、当公園東駐車場区画線の更新と国体開催期間中の駐車場貸し出しを行った。
 - ・ 県民協働による公園管理を推進するため、「わんぱく公園友の会」を発足し、様々なボランティア活動に対するサポート事業を開始した。
 - ・ 夢花壇及び南口花壇は、緑化ボランティアの手入れにより四季折々の草花で修景した。
 - ・ 道の駅みぶ連携事業の一環として、隣接するおもちゃ博物館、町総合公園、ハイウェーパークの利用促進に貢献するため、週末ごとに各施設入口付近に停留所を設けたわんぱくトレインを運行した。
 - ・ 愛パークとちぎ事業や私たちの花壇事業を推進し、地域住民や企業等が継続的に環境美化に取り組めるよう支援した。
 - ・ 新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、公園の管理作業や体験プログラムの講師として公園ボランティアの協力を得て実施した。
 - ・ とちぎグリーンフェスタでは、地元小学校や緑化団体の協力を得ながら、会場修景やイベントを行った。
 - ・ みぶハイウェーパーク協力の下、「トマトのマルシェ」を開催して、壬生町の特産品であるトマトを広く紹介した。
 - ・ 秋の「かかしまつり」では、地元幼稚園、保育園、小学校（学童）、中学校に作品を出展していただき、リンゴの収穫を願った。
 - ・ 園内で育成したリンゴは、かかしまつりに参加した壬生町内の幼稚園・保育園や小学校等に記念として配付した。
 - ・ ひな飾り展示では、地元特産品の「かんぴょう（ふくべ）」を使ったお内裏様とお雛様を用意して、みぶハイウェーパークとわんぱく公園内に飾り、地域の活性化を図った。
- (5) 効率的・安定性のある管理運営
- ・ ご意見箱、電話、メールなどにより利用者の意見を受け付けた。
 - ・ 苦情内容を全従業員に周知徹底し、原因究明と再発防止に向けて取り組んだ。
 - ・ 公園管理運営士など公園管理運営技術に関する有資格者を配置した。
 - ・ 災害発生時のマニュアルを整備し、来園者の避難誘導、非常時のエレベーター救出等の訓練を実施することにより安全確保に努めた。
 - ・ 巡回による安全確保と防犯を徹底した。
 - ・ 危険性が予想される箇所の把握、潜在的な危険を把握し、スタッフ全員に周知徹底した。
 - ・ 一括契約、一括購入により経費節減を図った。
 - ・ 朝礼時において、連絡、注意事項、笑顔の徹底を図った。
 - ・ 植栽管理等において指定管理グループとして、大型機械や大人数による短期集中の一括管理を行い、作業の効率化を図った。
 - ・ 管理作業マニュアルを活用し、管理作業に携わる全従業員に安全教育を行った。
 - ・ 遊具は毎日の日常点検をはじめ、月1回の定期点検、年1回の専門業者による総合点検を行い、安全性を確認している。
 - ・ 新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、催し物の中止、施設の感染防止対策の徹底、利用者への注意喚起などを行った。
- (6) 施設利用提供の実施計画
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、栃木県と密に連携を取りながら、施設の利用制限、講

座の開催などを行った。

- ・有料公園施設については、繁忙期に休業日を設けずに営業した。
- ・人が密になり、新型コロナウイルス感染防止対策が難しい施設であるボールプールや乳幼児が這って移動するキッズルームは閉鎖、係員が消毒できる場所、手指の消毒に協力いただける場所は開放するなど、メリハリのある施設提供を行った。

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・管理事務所に意見箱を常時設置し、ご意見票を回収 回収件数 125件 				
主なご意見票の項目	良い	良い方	あまり良くない	悪い
公園内はきれいでしたか	59.0%	35.0%	5.1%	0.9%
公園の管理状況はいかがでしたか	60.5%	33.3%	4.4%	1.8%
花壇や樹木などの植物の管理状態はいかがでしたか	65.6%	31.1%	2.2%	1.1%
スタッフの対応はいかがでしたか	71.6%	22.1%	5.3%	1.1%
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで意見を受付 ・ボランティア団体意見交換会を開催し、意見・要望を聞き取り ・とちぎわんぱく公園連絡協議会を開催し、意見・要望を聞き取り 				
主な利用者意見（苦情・要望）	対応			
<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチに鳩の糞があり座れない。 ・犬の散歩について、①リードをはずして散歩させることがよく目にされる。②リードが長すぎ※掲示板にある犬の散歩についての注意放送でもするべきだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、巡回清掃時に除去して清潔に利用していただけるよう管理してまいります。 ・犬のリード着用等については、日頃より看板及び巡視等により注意喚起しておりますが、ご指摘事項を参考として引き続き園内の安全管理に努めてまいります。 			
主な利用者意見（積極的評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜でも火曜でもすべての施設が閉まらない点が助かります。芝の手入れ等がキレイなので子供を走らせるのはありがたいです。 ・無料なのに素晴らしい公園です。2歳の子供がとても楽しそうでした。 			

6 指定管理者による自己評価

成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着きはじめた年であった。徹底した感染症対策と各施設の利用促進策に努めた結果、昨年よりも利用者数が増え、感染症の流行が年度途中ではじまった令和元年度の利用者数まであと一步という結果となった。 ・特に、自主事業については、鯉のエサの自動販売機の設置やキッチンカーの出店日の増加等サービス向上に努めたことにより、来園者の滞在時間が以前よりも伸び、遊戯施設及び売店施設の利用が伸びた。 ・ふしぎの船にセンサーのふしぎがリニューアルオープンしたため、それに係るイベントを実施するとともにマスコミへの投げ込み、近隣幼稚園を招待するなどして、PRに努めた。その効果もあり、入場者数は令和元年以降で最高となった。 ・新型コロナ感染症拡大防止については、従業員、利用者ともに徹底した対策を行った。また、子どもの城やふしぎの船等の施設において、抗菌抗ウイルス効果のある無光触媒エコキメラのコーティング施工を行い、衛生環境の向上と感染防止に努めた。

- ・公園の維持管理については、施設整備、建物管理、清掃等、当公園指定管理グループ一丸となって適切に行った。特に園地管理については、管理グループの組織力を活かし、下記のとおり実施した。
 - ①年間計画を踏まえつつ生育状況や利用状況に応じて優先順位を付けながら剪定、除草、伐採等を行い、安全・安心で快適な公園づくりに取り組んだ。
 - ②広範囲な芝刈りや生け垣の剪定などは、大型機械の導入、大人数による一斉作業で効率的な管理を行った。
 - ③夢花壇では、緑化ボランティアとともに丁寧に作業を行い、年間を通し見ごたえのある花壇管理を行うことができた。
 - ④年間を通してリンゴ並木の薬剤散布を実施した。薬剤散布はJAうつのみやりんご専門部防除指針に則り、使用薬剤、散布時期を適切に行うことにより、リンゴの良好な生育を促せた。また、来園者に配慮して、開園前散布を行った。
- ・催し物については、天候や講師欠員によりやむなく中止となるものはあったが、それ以外に関しては人数制限、体調チェック、マスク着用など感染対策を徹底しながら、計画通り実施した。
- ・当公園指定管理グループ代表者である（公財）栃木県民公園福祉協会が設立 50 周年であること、国体が 10 月に本県で開催されることから、利用者が更に公園を楽しめるよう、都市緑化月間行事「とちぎグリーンフェスタ」を今年度は一カ月間かけて実施した。国体をテーマとした夢花壇の修景や地域の小学校と協力した県民花飾りの展示など、会場内の修景にも力を入れた。また、3年ぶりにガーデニングコンテストを実施し、参加者の創意工夫あふれる作品が公園利用者の目を楽しませた。一カ月という長い期間ではあったが、毎週多種多様なイベントや講座を行い、多くの公園利用者に喜んでいただけた。
- ・国体の開催期間中、東駐車場を貸し出し、国体のスムーズな運営に協力した。また、それに向けて、東駐車場の区画線を更新した。
- ・利用者に支障がない範囲で節電に努めるなど、管理コストの削減を図った。
- ・施設の老朽化に対して、指定管理者として日々対処しているが、それでも対応に苦慮する場面が多々ある。優先順位を県と協議して、整備を進めていきたい。

地域との連携を推進し、地域活性化に向けた取組 ※指定管理者が独自に設定

- ・壬生町が設置した「道の駅みぶ活性化検討委員会」に参加し、当駅の主要施設として活性化基本計画の策定に向け協議した。
- ・町が進めたデジタルコンテンツ「XRシティみぶ」に協力し、公園の魅力増進と利用促進を図った。
- ・北関東フラワーパーク協議会に参加し、令和4年度の活動実績と次年度以降の取り組みについて協議した。
- ・愛パークとちぎ事業や私たちの花壇事業を推進し、地域住民や企業等が継続的に環境美化に取り組めるよう支援した。
- ・みぶハイウェーパークの協力を得ながら「トマトのマルシェ」を開催して、壬生町の特産品であるトマトのPRを行った。
- ・秋の「かかしまつり」では、地元幼稚園、保育園、小学校（学童）、中学校に作品を出展していただき、リンゴの収穫を願った。
- ・とちぎグリーンフェスタでは、花や緑に関心を持つきっかけづくりとして、地元の小学生による寄せ植えづくりを行い、わんぱく公園に飾って多くの来園者に見ていただいた。
- ・みぶハイウェーパークと協働で、地元の特産品であるかんぴょう（ふくべ）を使ったお雛様を作り、わんぱく公園とみぶハイウェーパークに飾ってお互いの施設を紹介しながら、かんぴょうが壬生町の特産品であることも紹介した。

今後改善・工夫したい事項

- ・施設の老朽化が進み修繕箇所が増えてきており、安全管理を考慮した上で県と連携・協議を勧めながら予算の効率的な執行に努めていきたい。
- ・県内外の誘客及び地域活性化を図るために、「道の駅みぶ活性化検討委員会」や「北関東フラワーパーク協議会」等のネットワークを活かし、積極的に連携事業等を実施したい。
- ・常に魅力ある公園であるために、公園利用者ニーズの把握や管理運営に関する情報収集に努めたい。
- ・老木化、高木化による事故防止のため、県と協議を図りながら樹木の適正な管理に努める他、倒木や枯損木の伐採が増えていくため、計画的に新たな苗木を植栽し、育成する必要がある。

7 所管課室による評価

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の 平等利用の 確保	① 住民の平等利用が確保されたか。	適切に実施されている。	B
	② 使用許可に関する権限が適正に行使されたか。	所定の手続きに則り、適切な許可が行われている。	B
	③ 高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	高齢者や身障者に対し配慮するなど事業計画書どおりされている。また、園内売店においては、障害者就労施設で製造される商品を仕入れ販売している。	B
2. 施設の 効用の最大 限発揮	① 施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか。	事業計画に基づき、施設の設置目的に沿った業務が実施されている。	B
	② 施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか。	コロナ禍により利用を制限された状況ではあったが、こどもの城に無料の休憩所を設けたり、ふしぎの船ではシニア料金の設定やポイントカードの発行する等、県民サービスやリピーターの確保に努めた。	B
	③ 利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか。	利用者の満足度は昨年並みだった。	B
	④ 利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか。	要望・苦情に対して、適切且つ迅速に取組み対応している。	B
	⑤ 施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか。	日常・定期点検を実施し、その記録が保管されているとともに、管理打合せ簿にて修繕の提案・修繕実施報告され、その修繕履歴が適切に保管されている。また、備品の管理は適切に実施されている。	B
	⑥ 指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか。	グリーンフェスタを1か月間かけて実施するなど、利用者が公園を楽しめるよう努めた。	B
3. 管理を 安定的に行 う物的人的 基礎	① 組織体制は適正か。	当該業務を概ね適切に遂行できる組織となっている。	B
	② 収支は適正でバランスがとれたものか。	概ね適正である。	B
	③ 経費の縮減に取り組まれてきたか。	事業計画書どおり多目的、多用途に従事するスタッフを配置し人件費を削減するとともに、保険契約等は一括契約を行い経費削減に取り組んでいる。	B
	④ 人材育成は適切に実施されているか。	公園管理に必要な資格の取得や技術と能力を向上するため、事業計画書に基づいた研修を実施した。	B
	⑤ 危機管理体制（事故、緊急時の対応）は確保されているか。	緊急時連絡体制により、関係部署との連絡体制は確保できている。また、事故・異常気象時の対応も適切に対応・報告がなされていた。	B
	⑥ 県や関係機関との連携体制は確保されているか。	県や関係機関と連携し、管理運営を行っている。	B
4. 個人情報 保護	① 個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか。	個人情報の保護に関する要領を定め、適切に保護している。	B

	② 情報公開は適切になされているか。	情報公開事務処理要領を定め、適切に運用している。	B
5. その他	① 施設の特徴にふさわしい自己評価がなされているか。	適切な自己評価が行われた。	B
	② 自主事業が計画どおりに実施されているか。	コロナ禍により中止になったものも多くあるが、可能なものは感染症対策を行ったうえで適切に実施した。	B
	③ イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか。	ふしぎの船のリニューアルに係るイベントや国体をテーマとしたイベント等地域と連携が図られた。	B
	④ 環境への配慮（騒音・光害対策、ごみ削減等）がなされているか。	公園利用者にはごみの持ち帰りをお願いするほか、枯枝や支障枝剪定後、自前でチップ化し植栽エリア等にまくなどゴミの縮減に努めた。	B
	⑤ その他管理運営上の特記事項	新型コロナウイルス感染症対策の徹底に努めた。コロナ対策を取りながらふしぎの船のリニューアルに係るイベントを実施したほか、SNS等を駆使してPRを行い公園の魅力向上に努めた。	B

総合的な評価

一般的におおむね良好な管理運営状況である。

ふしぎの船の一部リニューアルや花の見頃を迎える際などに積極的なPRに取り組むことで、利用者促進を図っているほか、利用者の意見に丁寧に対応することや、車椅子、ベビーカー等を無料で貸し出す等、利用者満足度の向上にも努めている。

また、昨年に引き続きみぶハイウェーパークや地元幼稚園などとの連携にも努めており、地域に根ざした管理運営が出来ていることもとても評価できる。今後とも様々な企画を充実させることにより、公園利用者数の増加につなげていってほしい。

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して優れた取組となっている。
- B：事業計画どおりの取組となっている。
- C：事業計画に対して劣る取組となっている。
- D：事業計画に対して著しく劣る取組となっている。